

## 令和2年度 第1回 青森市スポーツ推進審議会 会議録概要

**開催日時** 令和2年10月27日(火) 18:30~19:40

**開催場所** 青森市福祉増進センター 3階 大会議室

**出席委員** 増田 あけみ委員(会長)、柿崎 泰明委員(副会長)、塚田 晴彦委員、  
岩崎 一生委員、高杉 勝彦委員、神 明彦委員、  
竹内 慎委員、奈良原 正志委員、  
長内 良丸委員、久慈 佐知子委員、斎藤 広樹委員  
《計11名》

**欠席委員** 中田 吉光委員

**事務局** 地域スポーツ課

課長 遠嶋 祥剛、オリンピック・パラリンピック推進室長 小山 信哉、  
国民スポーツ大会準備室長 中田 真紀子、主幹 淋代 優樹、主幹 高坂 岳資、  
主査 葛西 光明、主査 滝浪 千絵、主事 奥谷 幸斗、主事 三上 直子  
浪岡事務所地域づくり振興課  
主幹 今村 剛志、主査 鎌田 圭祐  
《計11名》

**会議次第** 1 開会

2 審議

(案件) スポーツ団体に対する補助金について  
・一般財団法人青森市スポーツ協会  
・青森市スポーツ少年団

3 報告

(案件) 令和2年度スポーツコミッション青森推進事業について  
(案件) 青森市スポーツ推進計画の取扱いについて

4 閉会

## 審議（案件）スポーツ団体に対する補助金について

事務局から、資料1のとおり、スポーツ団体に対する補助金について説明があった。

### 意見、質疑応答

○なし

## 報告（案件）令和2年度スポーツコミッション青森推進事業について

事務局から、資料2のとおり、令和2年度スポーツコミッション青森推進事業について説明があった。

### 意見、質疑応答

○委員

明治大学の陸上部の夏合宿への支援は、どのような効果を見込んで支援しているのか教えていただきたい。

○事務局

アスリートの皆様に青森で合宿をしていただくことによって、子どもたちとの交流を通じて、子どもたちのスポーツに関する意識醸成を図るということのほかに、市として、様々なスポーツ大会の合宿誘致を通じて地域の活性化に結び付くような経済効果の獲得も一つの目的として実施している事業になる。

明治大学の合宿は、昨年度に引き続き実施されたものの、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、小学校の陸上部等との交流は、実施できなかった。

○委員

大学の合宿の支援は、どういう基準で選んでいるのか。

○事務局

特に明確な基準を設けてはいない。青森市では、宮田に合宿所を備えたスポーツ施設があること、夏場、非常に涼しいということで、夏場のトレーニングに非常に適しているという強み、青森の特性を活かした形で、青森で合宿をしていただきたいということでPRや助成金の交付等により、合宿を支援している。

全国の自治体において様々な取組が行われている状況の中で、合宿する団体については協議のうえということになる。

○委員

明治大学の空手部も全国では強い学校で、青森県で合宿を行っているが、支援がない状態だったため、今度ゆっくり相談したい。

○事務局

スポーツコミッションそのものが昨年の3月に設立され、そこから取組を具体的にスタートさせているため、もしそのようなお話があれば、ぜひ、情報提供いただきたい。

○委員

ぜひ、委員の方々が持っている様々な情報をスポーツコミッションに提供していただき、多くの選手に青森で合宿をしていただけるよう、働きかけていただきたい。

○委員

マエダアリーナでもレンタサイクル事業を行っているので、むつ湾一周サイクリングコースのパンフレットをアリーナにも置かせていただきたい。

○事務局

後日、提供させていただくので、ぜひ、ご協力の程お願いしたい。

○委員

とてもいいパンフレットなので、様々なところで広めていただきたい。

○委員

スポーツツーリズム推進事業の「あおもり桜マラソン」について、昨年度の資料では、「AOMORI マラソン」となっているが、どのような経緯で「あおもり桜マラソン」というネーミングになったのか。

○事務局

昨年度まで、「AOMORI マラソン」として、28年間にわたり、7月にハーフのマラソン大会を開催していた。大会の回を重ねるにつれ、7月の大会では、熱中症等の課題があったことや、参加者の方からのフルマラソンを開催してほしいとの要望もあり、今年度からは、桜の咲く4月に開催時期を変更するとともに、名称については、実行委員会で決定した。

○委員

あおもり桜マラソンは、桜の時期に合浦公園も走れるので個人的にも楽しみにしていたので、来年は実現してほしい。

○委員

スポーツツーリズムの推進における、むつ湾周遊サイクルツーリズムについてお聞きしたい。県外、さらに外国からのお客様の誘致も考えて、多言語パンフレットを作成していると思うが、自転車は持ち込みを考

えているのか。それともレンタサイクルを考えているのか。どのような形でのサイクルツーリズムかをお聞かせいただきたい。

○事務局

今年度の取組としては、コースの設定、パンフレットの作成等、皆様への情報発信をしていくこととしている。現時点では、主に自転車を持ち込みいただくことを念頭にしているが、今後は、レンタサイクルといった関係機関の方々と相談しながら、手ぶらでお越しただいて、自転車を借りてという形も情報発信できるようにと考えている。

○委員

持ち込みを主体に考えているということだが、自転車を持ち込むことは非常に手間がかかり大変なうえ、物が大きいので、置く場所も限られる。また、自転車一式を送る場合は、送料もそれなりにかかることを考えると、個人の負担が非常に大きい。できれば、関係市町村と調整して、電動自転車（Eバイク）のレンタサイクルを考えていただきたい。

○事務局

今後、8市町村で検討していきたい。

○委員

今年は新型コロナウイルス感染症により、やりたくてもできないことが多かったと思うが、やれないなりに色々考えていただき、次年度、頑張ってください。

## **報告（案件）青森市スポーツ推進計画の取扱について**

事務局から、資料3のとおり、青森市スポーツ推進計画の取扱について説明があった。

### **意見、質疑応答**

○委員

資料の中にある「地元を本拠地とするプロスポーツチーム等の情報発信」についてお伺いしたい。広報あおもり10月1日号において、ラインメールとワッツの情報発信をしているが、青森市にある一般社団法人日本競輪選手会青森支部の活動について掲載されていないのはなぜか。

前回の審議会において、「地域スポーツ課では、地域のプロスポーツクラブとして民間主体で活動している青森ワッツ、ラインメール青森FCへの協力や支援を行っている。」「競輪事業については、市が競輪事業者の主体として取り組んでいる状況であり、それぞれで取組を進めている。このほか、当課の取組については、競輪事務所に必要に応じて情報提供するなど、連携して取り組んでいく」と回答いただいたが、情報提供して、連携したのであれば、なぜ掲載されていないのかお聞かせいただきたい。

○事務局

前回の審議会以降、当課から企画部競輪事業所へ、委員の方からご意見があったことも含めてお話させていただいている。また、ワッツ、ラインメールの情報発信については、年に何回か掲載しているが、担当課と再度、情報発信の手法について、相談等をしていきたい。

○委員

ワッツ、ラインメール同等に扱っていただきたい。広報あおもりは、みんなが見ているもの。小さい子どもたちが「僕、自転車好きだから競輪選手になりたい」ということもあるかもしれない。スポーツ人口の拡大にもつながると思うので、是非お願いしたい。

○委員

青森のスポーツのためにも、競輪のためにも、うまく情報発信していただきたい。

(連絡)事務局から委員の任期について

閉会